

エステル的人生から学ぶ(4):「人生の大逆転劇---あなたのための神の計画を悟る」

メッセージノート 2022.7.24

エステル記 7章

- ・ このシナリオは、エステルが計画したことだったのか？
 - ◇ これは、すべて神がなされた。どんなシナリオだったか？これまでの流れ:①先の王妃ワシュティの失脚とエステルの選出。②モルデカイが、王殺害の計画を未然に防ぐが、褒美は貰わなかった。③ハマンの台頭とユダヤ人殺害計画。④エステルの三日間の断食と、命をかけた王への直訴。⑤2度の宴会。←2度目の招待:今日の箇所。⑥大逆転(ハマン、自ら立てた柱で処刑される)。⑦ユダヤ人撲滅命令を逆転させる。
 - ◇ このシナリオは、神の偉大な「神の国」(グランド・ナラティブ)の中の一部として、神がエステルを用いて描かれたのである。
- ・ このような出来事は、エステルの人生にだけ起こることなのか？
 - ◇ 神は、このような驚異的御業を、私たちの人生においてもなされるというのが、聖書の教えである。では、如何にしてか?

詩篇 139:13-18 ¹³ あなたこそ 私の内臓を造り、母の胎の内で私を組み立てられた方です。¹⁴ 私は感謝します。あなたは私に奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは それをよく知っています。¹⁵ 私が隠れた所で造られ、地の深い所で織り上げられたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。¹⁶ あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが記されました。私のために作られた日々が、しかも その一日もないうちに。¹⁷ 神よ あなたの御思いを知るのは、なんと難しいことでしょう。そのすべては なんと多いことでしょう。¹⁸ 数えようとしても、それは砂よりも数多いのです。

- ・ ①「奇しい」:神は私を心身ともに複雑で緻密に造られた。「内臓」とは、身体のみならず、魂という意味。②「隠れたところ」:個人的に、特別にという意味で、機械的大量生産ではないということ。③「その一日もないうちに」:私が誕生する遙か前に、神は私のことを「見られ」(認識し、覚え、温め)ていた。思いつきではなく、大切な存在である。④「あなたの御思い(私のための計画)」の全体は、あまりにも大き過ぎて、把握どころか、想像すらできない。
- ・ それでは、私たちは、分からないままで放っておけばよいのか? 聖書は、私たちが神の「召し(使命)」や「ビジョン(幻)」に気づき、その召に答える生き方をすることを求めておられる(神との協働の生き方)。→ピリピ 1:6 私の中に良い働きを始められた神、エペソ 2:10 賜物を用いる舞台も用意している。

神の使命(幻)の受け取り方(認識の仕方)について

1. 私にも使命(召し)がある

ローマ 8:28 私たちは、神を愛し神のご計画のうちを歩んでいる人のためには、その身に起こることはすべて、神が益としてくださることを知っているのです。

- ・ 「その身に起こることはすべて」:良いことばかりでなく、痛みも含めて、神はそれらを用いて奇しいことをされる(前提)。
- ・ パウロは、自分がどのようにして救われ、異邦人の使徒として任命するようになったのかという証を3度している(使徒 9,22,26 章)が、特に 26:19 ではこのように述べている。

使徒 26:19 それでアグリッパ王よ。私はこの天からの幻に従ったのでございます。

- ◇ この「幻(ビジョン)」:「オプタシア」という言葉は、エステル記では4:1に出てくる。七十人訳(ギリシャ語で表記した旧約聖書)では、動詞形で「悟る」という意味で出てくる。それは、モルデカイがハマンのユダヤ民族撲滅の企ての全貌を「悟って」、恐怖におののくという文脈で出てくる。それは、モルデカイのハマンに対する態度が原因だった責任も含め、複雑な思いで悟ったという意味。

- ◇ ただこの認識が、どれほど人間的に深いものであっても、神のグランド・ナラティブとしてのご計画の中では、さらに深い意味があった。ハマンは、アガク人であり、アマレク人の子孫である。モーセがエジプトを脱出した際、全く関係のないアマレク人

たちがモーセたちを襲った。そのことを覚えていた神は、サウル王にアマレク人を打つように命じたが、サウルは、アマレクを聖絶せず、分捕り物をかすめ奪い、王を生かしておいた。その子孫であるハマンが、今ユダヤ人絶滅を企むようになってしまっていたのを、神はここで完全に打ち砕かれたのだった(神の計画の中でモルデカイは、用いられた)。

➤ あなたも神の偉大なる計画の一部を担わせていただいている(特権)。これは、私たちの人生に意味を与える。

2. 使命(幻)の3つの側面(Sense of Destiny: 使命の予告 - 使命の気づき - 使命を全うする)

① 使命の予告: Destiny Preparation

- ・ 例)ヨセフの誕生の事情とその後の彼の人生。母ラケルは、長年こどもが与えられず悩む期間を過ごす、ついに神が省みて、彼女の「恥を取り除いてくださった。もう一人の子が与えられますように」と言って、ヨセフと命名。そのヨセフの人生も、奴隷生活と冤罪の汚名で苦しむが、その苦悩を通して成長させられ、最終的には、家族を絶滅から救う(創世記 30:22)。
- ・ 例)モーセは両親の信仰(ヘブル 11:23)により、生後3ヶ月間、隠されていたが、ナイル川でパロの娘に拾い上げられ救われる。それで「水の中から救い出された子」と命名されたが、後年イスラエル民族を紅海の中から救い出す(出エジプト2章)。
- ・ 例)ハンナは子どもが与えられず神に祈り、サムエルが与えられると、神に誓った通り、息子を神に捧げる(1サムエル1章)。

② 使命の気づき: Destiny Revelation and Confirmation

- ・ 働きの道が開かれる。公に頼まれる場合もあるし、誰も気づいていないのでやらざるを得ないこともある。
- ・ 神は、その働きの必要な訓練の機会を与えられる(好むと好まざるにかかわらず)。
- ・ 振り返ると、そのための備えを神はされていたことに気づく。モーセのミディヤンの荒野の40年。パウロがガマリエル門下で律法や旧約聖書を徹底的に学んだことは、福音をユダヤ人以外の世界に広げていく準備であった。

ガラテヤ1:13,15-17 ¹³ あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。… ¹⁵ しかし、わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、 ¹⁶ 御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせるようにされたとき、わたしは、 ¹⁷ すぐ血肉に相談するようなことはせず、 ¹⁷ また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでした。(新共同訳)

◇ パウロは、詩篇139篇の表現を使い「母の胎内にある時から選び分け、恵みによって召し出してくださった神」と述べているが、自分の人生を振り返って神の御手に導かれて来たこと(異邦人の使徒として)をしみじみ感じているところ。

◇ 神の召し(ビジョン)を理解し、そこに生きようになるには神の訓練を受け、また、賜物をいただく必要があった。

エペソ 3:2,7 ² 私はユダヤ人でないあなたがたに福音を宣べ伝える務めを神からいただいている。⁷ 神はこのすばらしい福音を宣べ伝える特権を私に与えてくださり、その働きを遂行できるように特別な力と恵みの賜物を与えてくださった。(現代訳)

◇ この世界の基が据えられる前からの神の計画の中に入れられていた「私」という信じ難いが、この永遠の真理を私たちは、どこまで理解しているだろうか？

③ 使命の全う Destiny Realization

2テモテ 4:6-8 ⁶ わたし自身は、既にいけにえとして獻げられています。世を去る時が近づきました。⁷ わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。⁸ 今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます。

まとめ

- ・ あなたの人生も神の計画があることを信じるか？では、あなたは、自分の使命はなんだと思うか？
- ・ あなたの人生において神はどんな備えをして来られたか？誕生、家庭や社会的事情？